

令和4年度第2回加古川市介護保険運営協議会 要旨

日 時：令和4年12月15日（木） 14:00～15:30

場 所：加古川市役所 北館 大会議室

出席者：【委 員】12名出席

【事務局】13名出席

1 開会

会長あいさつ

2 審議事項

令和4年度加古川市地域密着型サービス等事業候補者の選考について

① 看護小規模多機能型居宅介護の選考について

※加古川市情報公開条例第5条第5号に基づき、審議内容及び資料を不開示とします。

② 認知症対応型共同生活介護の選考について

※加古川市情報公開条例第5条第5号に基づき、審議内容及び資料を不開示とします。

3 報告事項

(1) 令和4年度上半期地域包括支援センター活動報告

(事務局) 資料2より説明

(委 員)

地域によって違うかもしれないが、地域ケア会議で地域の課題を抽出、改善していることについてお話いただけますか。

(事務局)

地域包括支援センター（以下、「包括」という。）主催の会議から出てきたものを市主催の会議で検討しています。地域によって課題の出方や件数にばらつきがありますが、共通する課題については、地域包括ケア推進会議の提案に向けて地域ケア検討会議で分析を進めています。

(委員)

具体的に抽出された課題や、それに対する取り組みはありますか。

(事務局)

地域ケア検討会議で協議中の内容になりますが、支援者がいないために困っている事例が多いです。具体的に言いますと、例えばゴミ出しや成年後見制度につながるまでの支援に課題があるといった事例が多く上がっています。

(委員)

例えば老老介護、認認介護、一人暮らしで身内がない人が亡くなったケースなどは市に報告が上がってきており支援ができていると思いますが、認知症になった場合、どう支えるかが難しくなってきます。意思決定することについて、本人の代わりに処遇や医療ケアの方針を立てるような支援がないため作っていく必要があると思います。

国でも一人暮らしの人の意思決定支援や看取りの対応マニュアルができてきています。その辺りの研修は包括もされていると思いますし、民生委員と定期的に連絡を取り合ったり、研修を行ったりしているとも聞いていますが、一人暮らしの人の意思決定支援をどのようにするか考えていますか。

(事務局)

包括は高齢者の支援窓口として、認知症の人を支えてもらう働きもしています。

最近感じるのは、複合的な問題を抱える家庭の支援が難しいことです。単身の人や身寄りのない人に対しては、行政のしくみの中で措置などの手段が取れますが、例えば、精神疾患を抱えた子どもと二人暮らしなどの場合に相談ができない、説明が十分に伝わらない、家族の同意が得られず次のステップに進めない場合があり、その辺りは包括が最前線で相談を受け、市も一緒に協議しています。成年後見制度もですが、つまづいてしまうこともたくさんあります。

今後、その辺りをどうカバーしていくかというところで、国では包括に総合相談機能を持たせることも議論されています。対象を高齢者と解するのか、もう少し広い視点で考えていくのかを問題として捉えながら事業を進めていく必要があると思います。

(委員)

ワンストップという言い方もしますが、制度が多岐にわたり利用できることを知らない人たちもたくさんいます。また相談を受けた窓口が制度を知らないこともあります。包括が全てこなせるのが理想ですが、大変だと思います。ワンストップで行うのであれば、専門職の知識も必要ですし、どのようにしていくのだろうかと思っています。

(委員)

高齢者に対しては多岐にわたるサービスが充実してきていますが、利用者側のケースがそれぞれ違うことが大きく、例えば成年後見制度を利用しようと進めても、親戚がいる場合は金銭管理も含めて一進一退でなかなか進まないこともあります。3年間ずっと一進一退で関わっている民生委員もいます。入り込まないようにアドバイスもしますが、複雑な動きに関わっていることもあります。民生委員は関係機関につなぐのが仕事ですが、介護サービスにつなぐだけでも簡単に進まないこともあります。地域の声を聞いて対応していますが、包括や行政につながると安心します。

(委員)

包括は民生委員と顔の見える関係を作る場を持っていると思います。行政は困難なケースに対応していますので高度な力を持っていると思います。

包括を通じて行政の力も借りて解決する方法を考えるなど、民生委員が1人で抱え込まないようにしていければよいと思います。

(委員)

地域ケア会議の回数は年間46回だが、ケースとしてはもっと件数があると思います。

ここで出てくる課題は金銭管理、キーパーソン不在、成年後見制度に関するものがいつも上がってきます。

自立支援マネジメント会議や個別会議での事例からはこのような課題だが、地域で支えていく地域づくりの課題はもっと違うところにたくさんあると認識しています。

地域課題が上がってくる仕組みをもっと考えていただけたらと思います。

(事務局)

地域の課題については各地域でささえあい協議会が立ち上がっており、そこで課題共有や解決に向けた検討をしています。ささえあい協議会の中で、市域で考える必要があるものは地域包括ケア推進会議で生活支援コーディネーターから課題をあげる仕組みがありますので、そのようなものをうまく活用しながら検討していきたいと思います。

(委員)

他にご意見等はございませんか。

貴重なご意見をありがとうございました。本日の意見を参考に事務を進めてください。

4 その他

第 10 期高齢者福祉計画・第 9 期介護保険事業計画策定に向けて実施するアンケートの設問について

(事務局)

(資料 3 により説明)

5 閉会

(副会長)

あいさつ